

予防に勝る治療なし

Prevention is better than cure.

40th Anniversary  
Iwate Health Service Association

財団法人岩手県予防医学協会創立 40 周年記念誌



## 財団法人岩手県予防医学協会の40年

### 県民の健康と福祉を願って

1970（昭和45）年10月1日、任意団体岩手県予防医学協会が誕生する。  
職員数4名。

### 新天地での再出発のため

1980（昭和55）年7月30日、施設を所在地の農村管理センターへ移転する。  
職員数105名。検査・健診総実施数530,098件。

### 県内唯一の総合健康支援機関として

1993（平成5）年10月7日、県南センターを竣工落成する。職員数283名。  
検査・健診総実施数1,022,839件。

### 創立半世紀へ向けた取り組みとして

2004（平成16）年4月21日、人間ドックセンターを開設する。職員数296名。  
検査・健診総実施数1,168,250件

予防に勝る治療なし

Prevention is better than cure.

40th Anniversary

Iwate Health Service Association



県南センター外観



岩手県予防医学協会外観







予防に勝る治療なし

Prevention is better than cure.

40th Anniversary

Iwate Health Service Association

財団法人岩手県予防医学協会は、基本理念に基づき人と社会に貢献する予防医学の専門機関となることを目指します。

## 基本理念

岩手県民の健康と福祉に寄与する

## 基本方針

1. 私たちは、健康診断を通じ、県民の健康寿命の延伸、健康度の向上に努めます
2. 私たちは、健康の保持増進に視点を置き、県民が健康で豊かな生活を営むことができるよう支援します
3. 私たちは、常に高い技術と最新知識の習得に努め、生命尊重の精神によるサービスを提供します

## 人事理念・人事基本方針・期待される職員像

### I. 人事理念

笑顔を創造する人の育成

### II. 人事基本方針

1. 自分の役割に責任を持ち、協働して仕事を進めていける環境をつくる
2. 自主的に能力向上に取り組み、チャレンジできる環境をつくる
3. モチベーションを高める環境をつくる

### III. 期待される職員像

1. ビジネスパートナーの笑顔を創造する人
2. 自分の仕事に喜びを感じ、生き活きと仕事ができる人
3. 高い専門能力を有する人
4. 常に問題意識を持ち、創造工夫のできる人
5. 社会に貢献し模範となる人



## シンボルマーク

1979（昭和 54）年、県民の公募により決まりました。岩手県予防医学協会の頭文字「い」を鳥のモチーフとしてデザインしています。平和と健康、そして限りない県民の幸福を表現しています。



## あおぎり号

検診車「あおぎり号」の名前は、落葉樹「あおぎり」に由来します。この樹木は、広島の実験原爆から蘇った木として、また伝説の鳥、鳳凰が宿る木として有名です。このたくましい生命力がある木に、健やかな未来を託して命名しました。



フィットちゃん

ペップくん

## キャラクター

2000（平成 12）年、創立 30 周年を記念してキャラクターを制作しました。右が元気はつらつ「ペップくん」左が笑顔健やか「フィットちゃん」。生命力豊かな若葉をイメージしたものです。

# 創立四十周年記念誌 発刊にあたって

財団法人岩手県予防医学協会

会長 高橋牧之介



岩手県予防医学協会が行政、医師会、農協をはじめとする関係諸団体の支えにより、ここに四十周年の節目の年を迎えることが出来たことを心から感謝申し上げます。

協会創設時の職員はわずか四名でしたが、現在の職員数は三百十五名となり、年間の検査健診件数も百万件を超え事業は拡張の現状にあります。事業発展の背景には、県、市町村、医師会、J A、労働基準協会など、数え切れないほどの多くの団体からのご支援ご指導をいただいた賜物であると関係の方々には厚くお礼を申し上げます。

協会誕生の歴史を振り返って見ますと、この四十年は波瀾万丈、激変の連続でした。中には優れた諸先輩の並々ならぬ情熱と苦難の跡が刻まれています。不惑の四十年をこれからの出発点としてご支援いただいた各位のご恩に報いるよう決意を新たに致しております。

「事前忘れざるは後事の師」とも言われ、苦難の足跡を遺わす記念誌は、一つの財産

であり未来は歴史の上に立つものと信じます。新生協会、生みの親とも言うべき遠山病院理事長遠山美知先生、五連会長岩持静麻氏、県医師会長佐々木一夫先輩の出会いをはじめ、協会の充実発展の為に生涯を捧げた栗原耿常務、田島達郎専務の壮絶な生きざまには後に続く者への深い教訓となるドラマが秘められています。

佐々木会長が時折口にされていた漢詩の一節「万里の長江、あに千里に一曲せざらんや」の通り、今後も協会運営の中では多くの紆余曲折を覚悟すべきであります。急激な高齢化の進行と地域医療危機の叫ばれる現代において、岩手県民の健康と福祉に寄与する第一歩は、当協会業務の充実に一分の隙も与えぬ努力にあると思います。記念誌に記された歩みと経験の歴史を通して今後の事業展開に資するヒントを得たいと考えております。

おわりに記念誌刊行に業務多忙のなか努力された松尾洋一編集委員長はじめ編集委員の諸君に感謝致します。

## 財団法人岩手県予防医学協会設立四十周年記念誌の刊行に寄せて

岩手県知事 達増 拓也



岩手県予防医学協会の設立四十周年を心からお祝い申し上げます。  
岩手県予防医学協会におかれましては、昭和四十五年の設立以来、四十年の長きにわたり、健康づくりの専門機関として、健診活動や健康教育などを通じ、県民の健康増進、予防医学の発展・普及に多大な貢献をされてこられました。

ここに、深甚より敬意を表します。  
岩手県予防医学協会の歩みを振り返りますと、貴協会は、脳血管疾患や心疾患など、いわゆる生活習慣病による死亡率が急激に高まり、生活習慣の改善や健診など予防医学の重要性が唱えられ始めた時期の、本県の県民病とも言われる脳血管疾患の死亡率が上昇のピークを迎えた昭和四十五年に、関係各位の大変な御努力によって設立されました。  
以来、本県の予防医学の中核として、昭和四十七年に検診車による地域や職場、学校を巡回しての健診活動を開始し、昭和五十五年には「農村健康管理センター」の整備による一日人間ドック、平成十六年には「人間ドックセンター」の設置によるシニアドック・レディースドックなどもスタートさせたところ

です。  
また、平成十七年には、歯周病検診を全国に先駆けて実施したほか、平成二十年からの特定健診・特定保健指導への対応や、自殺対策など県民の心のケアが大きな課題となっている中、平成二十二年からメンタルヘルス事業を開始するなど、県民の健康課題に適切、適切に対応し、県民の健康の増進と福祉の向上に大きく寄与してこられました。

この間、県民の健康に関する認識も深まり、本県における健康づくり対策は、飛躍的に充実してきましたが、これまでの貴協会の御功績は誠に大きく、改めて感謝を申し上げます次第であります。

御案内のとおり、近年における県民の健康水準は、医学技術の進歩、公衆衛生の発展、社会保障制度の充実に伴って著しく向上しているところでありますが、本県の保健医療を取り巻く環境は、医師の絶対数の不足や地域偏在、三大生活習慣病による死亡率が全国に比べ高水準にあるなど大変厳しい状況にあります。

このような中、県におきましては、平成二十一年十二月に策定した新しい総合計画「いわて県民計画」において、「地域の保健医療体制の確立」を重要な柱の一つとして位置付け、県民誰もが切れ目のない質の高い保健医療サービスが受けられるよう総合的な施策に取り組んでいます。

この計画の推進に当たっては、県や市町村のみならず、県民、関係団体、企業やNPOなどが地域の課題を共有し、力を結集しながら取り組んでいくことが重要であり、こうした観点からも、長年、予防医学の専門機関として、県民の健康づくりに大きな役割を果たしてこられた貴協会に対し、大きく期待するところであります。

結びに、貴協会が「いつまでも健康でありたい」という県民の願いに応え、健診活動などを通じて、今後とも本県の健康づくりに貢献され、ますます御発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 四十周年記念誌の発刊によせて

社団法人岩手県医師会  
会長 石川 育成



岩手県予防医学協会設立四十周年記念誌の発刊にあたり、岩手県医師会を代表して心よりお慶びを申し上げます。  
岩手県予防医学協会は昭和四十五年に任意団体として発足し、同年財団法人の認可を受けて以来四十年の永きに亘り県民の保健衛生の向上に尽力してこられました。設立に関わった方々の英断と、その後を引き継ぎ、紆余曲折を経ながらも弛まぬ努力で現在の隆盛を築かれた歴代会長はじめ役員、並びに関係各位の熱意と精進に対し深甚なる敬意を表するものであります。

また、この度は四十周年に際して記念誌の編纂を企画されましたが、歴史の記録は先達に対する感謝の証であり、後輩に対する伝統の継承であります。先賢の業績を顕彰する道を選ばれた高橋会長先生はじめ編集に携わった皆様方の心意気に深く感じ入った次第であります。

岩手県予防医学協会が県民の健康管理事業を拡充するために、岩手県医師会

との連携推進を模索されたのは、昭和五十三年のことであります。以来、関係各位のご理解を頂き、岩手県医師会を初めとして県内の全ての郡市医師会の理解の下に連携推進が行われ、今日の発展に繋がって参りましたことは、誠に喜ばしいことと思っております。

設立以来、学校保健、地域保健、産業保健の三本柱を中心に、人間ドック、環境測定、特殊健診など多くの事業を推進し、四十年間の総検査健診実施数は三千百万件に上り、病気の早期発見による県民の健康管理、健康づくりに多大の貢献をしてこられました。

岩手県予防医学協会におかれましては、これまで辿られた四十年の輝かしい歴史を礎として、役員が一致協力して立ち上がる問題克服し、岩手県医師会との連携の下で、今後益々充実発展されまことを心より祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。



# 祝財団法人岩手県予防 医学協会創立四十周年

岩手県農業協同組合中央会

岩手県信用農業協同組合連合会

岩手県厚生農業協同組合連合会

全国農業協同組合連合会岩手県本部

全国共済農業協同組合連合会岩手県本部

会長 長澤 壽一



財団法人岩手県予防医学協会の創立四十周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和四十五年発足以来、地域・職域、学校等あらゆる分野での健康診断や健康づくり活動を通じて、いわての保健予防活動の中心的機能をはたし、県民の疾病予防や健康意識の向上等、健康増進の推進に大きく貢献してこられました。

役員各位の予防医学に対する大いなる情熱と、これまでのご労苦、そして輝かしいご功績に対し、心から敬意を表する次第であります。

さて、J A いわてグループでは、平成二十一年十一月に開催いたしました第四十二回J A 岩手県大会の中で、「J A の総合性発揮による地域への貢献」を旨指すことを決議しました。これを受けてJ A 岩手県厚生連では、第八次厚生事業三か年計画を策定し、貴協会をはじめとした関係機関との事業連携強化による健康増進活動と地域活性化を目指した「J A 健康寿命百歳プロジェクト（運動・食事、健診・介護・医療）」や認知症啓発活動等に取り組んでおります。

このような環境の下、貴協会はJ A いわてグループにおける医学的分野のバックボーンであり、機能的にも不離一体の関係機関であります。特に、J A 岩手県厚生連は病院を持たない健康管理専門連として、貴協会との機

能分担により事業機能を拡充してまいりました。

貴協会発足からJ A グループとの連携経過を振り返ってみますと、翌昭和四十六年から「農民の命と健康を守る」活動として、県下農協婦人部の貧血検査を貴協会に依頼し、事業連携が始まりました。その後、J A 共済連いわての経済的支援もあり、検診内容を充実しながら農村地域に浸透、拡大を図り、昭和五十二年から市町村とJ A 連携による健診（いわて方式）の実施、岩手県医師会との連携、そして昭和五十五年農村健康管理センター設置による事業実施態勢の強化等、一種の共同的な密接連携のもと、数々の転換点を経て今日に至っております。

J A いわてグループとしては、ここまで積み上げられてきたさまざまな歴史の実績を機軸として、貴協会との相互理解と一致協力そして熱意と使命感により、今後ますます地域貢献への機能発揮に邁進していく所存であります。

事業環境もめまぐるしく変化し、将来への不透明感が深まっている中ではありますが、創立四十周年という輝かしい実績と歴史、そしてその崇高な事業理念を基に、変化する時代の要請に応えながら貴協会がさらに進化・発展し、ますます社会に貢献されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

【挨拶】

創立 40 周年記念誌発刊にあたって  
財団法人岩手県予防医学協会 会長 高橋牧之介 5

【祝辞】

財団法人岩手県予防医学協会  
設立 40 周年記念誌の刊行に寄せて  
岩手県知事 達増 拓也 6

40 周年記念誌発刊によせて  
社団法人岩手県医師会 会長 石川 育成 7

祝 財団法人岩手県予防医学協会創立 40 周年  
岩手県農業協同組合中央会 / 岩手県信用農業協同組合連  
合会 / 岩手県厚生農業協同組合連合会 / 全国農業協同組  
合連合会岩手県本部 / 全国共済農業協同組合連合会岩  
手県本部 会長 長澤 壽一 8

歴史編

歴史 topics 1

前史  
予防に勝る治療なし  
(予防協誕生の経緯) 12

*chronicle one* 通史 1

胎動期  
県民の健康と福祉を願って  
1970 - 79 (昭和 45 年 - 昭和 54 年) 14

■ human portrait

人物伝 1 協会の生みの親  
遠山美知 (初代理事長) 22  
人物伝 2 再興の祖  
佐々木一夫 (第 2 代会長) 23

*chronicle two* 通史 2

躍進期  
新天地で飛躍に向けた再出発  
1980 - 89 (昭和 55 年 - 平成元年) 24

●歴史 topics 2  
一日人間ドックのはじまり 32

*chronicle three* 通史 3

発展期  
県内唯一の総合健康支援機関として  
1990 - 99 (平成 2 年 - 平成 11 年) 34

■ human portrait

人物伝 3 協会発展の功労者  
田島達郎  
(初代専務理事・県民保健センター所長) 42  
人物伝 4 協会の真の創始者  
栗原耿 (初代常務理事兼事務局長) 43

*chronicle four* 通史 4

展開期  
創立半世紀へ向けた取り組み  
2000 - 2009 (平成 12 年 - 平成 21 年) 44

●歴史 topics 3 輝かしい受賞の記録 54

予防協 40 周年記念座談会

協会の 40 年、  
そして未来に向けて  
すこやかな笑顔のために〜 56

出席者 加藤十郎 (顧問) / 高橋牧之介 (会長)  
/ 十和田紳一 (常務理事) / 川村和子 (シニアアドバイザー) /  
松尾洋一 (編集委員長・司会)

現況編

各課紹介 66  
事業概要 81  
あおざり会 86

資料編

年表 88  
40 年の推移統計グラフ 96  
検査・健診総実施数と分野別実施数  
学校保健 主な検査・健診実施数の年度別推移  
地域保健 主な検査・健診実施数の年度別推移  
産業保健 主な検査・健診実施数の年度別推移  
がん検診 主な検査・健診実施数の年度別推移  
その他 主な検査・健診実施数の年度別推移  
各種受賞一覧 108  
研究発表記録 110  
各種研修会・講演会記録 116  
歴代役員在任期間 120  
組織の変遷 126  
現職員名簿 132  
従業員数の推移 136  
施設概要 137  
編集後記 138